



小雀公園 里山通信



Vol.40 ビオトープの稲作



Vol.37 でレストハウスそばのビオトープを作り直した様子をお知らせしましたが、その後ビオトープで稲を育てたので、今回はその様子をお知らせします。

近代の田んぼは生産性を高めるため農薬を使用しているので、昔と比べて生き物の種数は減ってしまいましたが、条件さえ整えば昆虫から哺乳類までさまざまな生き物が生息できる環境になります。それではミニチュアサイズではあるものの、田んぼをつくれれば生き物が色々と集まって、まさに理想とするビオトープになるのではと、安易な気持ちから稲作に着手しました。しかしながら、米という漢字は「収穫までに八十八回世話をする」くらい大変という意味が込められているとも言われている通り、そう簡単にはいきませんでした。何が大変かというと、粃から発芽させて、苗にするまでが意外と難しく、何度もまき直しをする羽目になってしまいました。田植えが終わってからは、虫がついても何してもビオトープだからという言い訳を盾に、水の管理をしたくらいであとはほぼ放置。それでも無事に稲刈りまで持っていくことができました。

このあと米にするには、脱穀、もみすり、精米という作業があります。農家では機械ですべて行いますが、公園にはそんな機械はないので、手作業で行うようになります。微々たる量の米とはいえ、考えただけで気が遠くなりそうです。もともと食べる以外の目的をもって稲を育てたのですが、今後使い道をお知らせする日が来るはずなので楽しみにしててくださいね。



最初はこんなに小さい苗が、1か月でだいぶ大きくなりました



植えて 80 日ほどで開花、9 月になると稲穂が頭を垂れました



**植え付けから 120 日
無事に稲刈り完了です！**



小雀公園 ☎045-853-1945
<https://midocomi.com/kosuzumepark.html>
横浜市指定管理者 緑とコミュニティーグループ

